

会話における発話権の終了

木暮 律子

信州大学人文学部

1. はじめに

会話は、会話参加者が話すことと聞くことを交互に繰り返すことによって成立し、この、参加者が互いに発話を交換する過程は話者交替と呼ばれている。

これまでの話者交替に関する研究では、いかに発話権を取るかということが中心に論じられており、発話権が現在の話者から次の話者へどのように移っていくのか、発話権の終了に焦点を当てた研究はほとんどなされていない。そこで、本研究では、話し手が発話権を終える際に使用する表現形式に注目し、その出現傾向について分析を行った。

2. 先行研究

・李 (1995) 「発話順番の交替表示」

終了表示：発話順番の終了を他の会話参加者に知らせるための標識

(「はい()」「えー()」「うん()」)

譲渡表示：発話順番を他の会話参加者に譲ることを表すもの

(「ねえ」「でしょう()」)

・中井 (2003) 「ターン終了表示」：ターンが終わる直前、直後に用いられる表示

ターン放棄終了表示：次のターン保有者を選択しないで、ターンを終えることを示すために用いる表示 (李 (1995) の終了表示、うなずき)

ターン譲渡表示：情報要求、同意要求等で次のターン保有者を選択してターンを譲ることを示すために用いる表示 (李 (1995) の譲渡表示、情報・同意要求、うなずき、視線を送る)

・金 (2004) 「turn を終える際に用いる言語形態」

終了・譲渡 : 名指し 問いかけ・質問

終了・(譲渡): 働きかけ 言いきり・断言 沈黙・笑い

(終了) : 言いかけ・言いさし

発話権終了標識：ターン末に単独で現れる実質的な内容を含まない表現形式

終了標識の使用率と 終了標識があるターンの特徴について分析する。

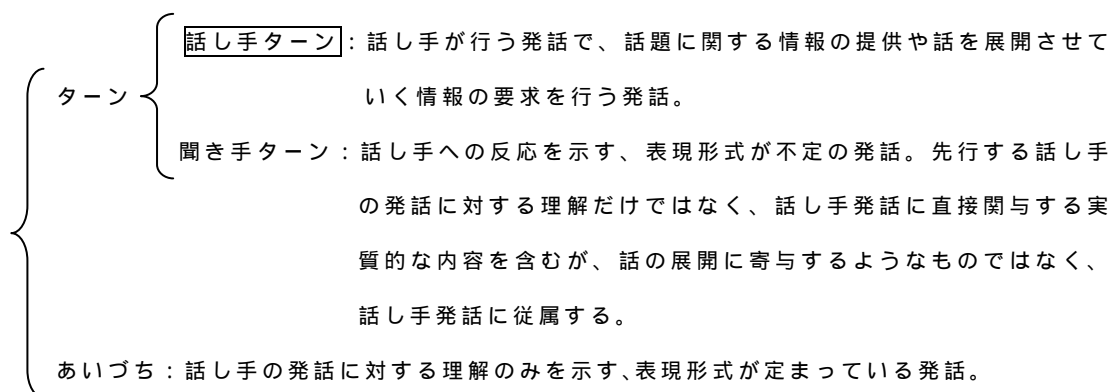
3. 研究方法

3.1 調査方法

調査対象者は、大学・大学院生の 20～30 代の女性である。対象者に対し、15 分のカセットテープを入れたテープレコーダーを渡し、親しい友人と二人で雑談する機会があるとき、その会話を録音してくれるように依頼した。収集した 10 組 20 名の会話、合計 150 分のデータを文字化し、分析のための資料とした。

3.2 分析単位

ターン：会話における話者交替の単位で、一人の会話参加者が話し始めてから話し
終わるまでの発話



発話権：話し手として発話順番を取り、実質的な意味内容を持つ発話を行う権利

3.3 分析対象

- ・李（2000）「話し続けることをやめる状況」＝「発話順番が終了する型」
 - （1）話す機会を他の会話参加者に譲るため、話し続けることをやめる
 - （2）話がもう終わったので、話し続けることをやめる
 - （3）話がまだ終わっていない時、他の会話参加者の発話による遮りで、話し続けることをやむを得ずやめる

本研究では、（1）と（2）の「話し手が自ら話し続けることをやめた」ターンを分析対象とし、（3）のように他の会話参加者の割り込みなどによって発話が中断されたターンは分析対象から除く。また、ターン末の発話が不明瞭なものや、自ら話し続けることをやめたのか、他者の影響によってやめたのか判断が難しい場合も分析対象から除いた。なお、会話相手の発話と重なっていても、話し手が途中で発話をやめることなく、情報伝達が最後まで行われている場合は分析の対象とした。

4. 分析結果

4.1 終了標識使用の実態

- ・終了標識として 111 例、9 つの表現形式が観察された。

表 1 終了標識の表現形式と出現数

	んー	うん	うーん	うんうん	そう	そうそう	うん、そう	ね	ねえ	合計
出現数	1	75	23	2	2	4	1	1	2	111
割合	0.9%	67.6%	20.7%	1.8%	1.8%	3.6%	0.9%	0.9%	1.8%	100%

- ・終了標識の使用率

標識が使用されたターン 111 / 分析対象の話し手ターン 1766 = 6.3%

終了標識以外のもの（発話内容、終助詞、音声的な特徴、非言語行動など）が発話権終了シグナルの役割を果たしている可能性が高い。

4.2 終了標識があるターンの特徴

4.2.1 あいづちの有無

表 2 終了標識の直前のあいづちの出現数

	あいづちあり	あいづちなし	合計
出現数	67	44	111
割合	60.4%	39.6%	100%

- ・あいづち出現率 60.4% 終了標識の前にはあいづちが出現することが多い。

【会話例 1】

1 B : うん。そっかー。シュークリームだったらおいしいのか。

2 A : シュークリームはおいしい。(うん、うん。) なんか、2 種類ねー、(うん。) クリームがこういうふうにあって、(うん。) 硬めのシュークリーム。(うん。そっかー。) うん。

3 B : 今度は絶対シュークリームにしよ。(うん。) うん。

4 A : あの目白のさー、(うん。) 駅ら辺で食べる？ 昼？

〔凡例〕 () あいづち

- ・あいづちに後続する終了標識：あいづちに対する応答のような機能

発話権の終了をお互いに確認しあいながら、聞き手と協力してターンをまとめ上げ、発話権の移行をスムーズにする働きをしている。

4.2.2 先行発話の形態

表 3 先行発話の形態と終了標識の出現数

	終助詞	中途終了型発話	その他	合計
出現数	11	13	20	44
割合	25.0%	29.5%	45.5%	100%

・その他の形態（発話末に助詞などを伴わない「裸の文末形式」）で発話権を終えるときに、終了標識を使用する傾向がある。

発話権継続・終了の両方の可能性があり、TRP¹⁾の誤認が生じやすいため、発話権終了の意思をより明確に相手に伝える必要があるからだと考えられる。

注

1) TRP とは、「Transition Relevance Place (移行適切箇所)」の略で、話者交替が起こる可能性がある箇所のことを指す (Sacks et al.1974)。

参考文献

- 上原聡・福島悦子 (2004) 「自然談話における「裸の文末形式」の機能と用法」『世界の日本語教育』第 14 号 国際交流基金日本語交際センター pp.109-123
- 金志宣 (2004) 「日本語の会話における優位な turn-taking パターンと連鎖型の構造」『日本語学研究』第 10 輯 韓国日本語学会 pp.45-49
- 杉山ますよ (2001) 「対談番組にみられる「中途終了型発話」」『別科論集』第 3 号 大東文化大学別科日本語研修課程 pp.35-53
- 陳文敏 (2000) 「日本語母語話者の会話に見られる「中途終了型」発話 - 表現形式及びその生起の理由 - 」『言葉と文化』創刊号 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻 pp.125-141
- 中井陽子 (2003) 「言語・非言語行動によるターンの受け継ぎの表示」『早稲田大学日本語教育研究』第 3 号 早稲田大学大学院日本語教育研究科 pp.23-39
- 李麗燕 (1995) 「日本語母語話者の会話管理に関する一考察 - 日本語教育の観点から」『日本語教育』87 号 日本語教育学会 pp.12-24
- (2000) 『日本語母語話者の雑談における「物語」の研究』くろしお出版
- Sacks, Harvey, Emanuel Schegloff and Gail Jefferson (1974) "A Simplest Systematics for the Organization of Turn-Taking for Conversation." *Language* 50 pp.696-735